



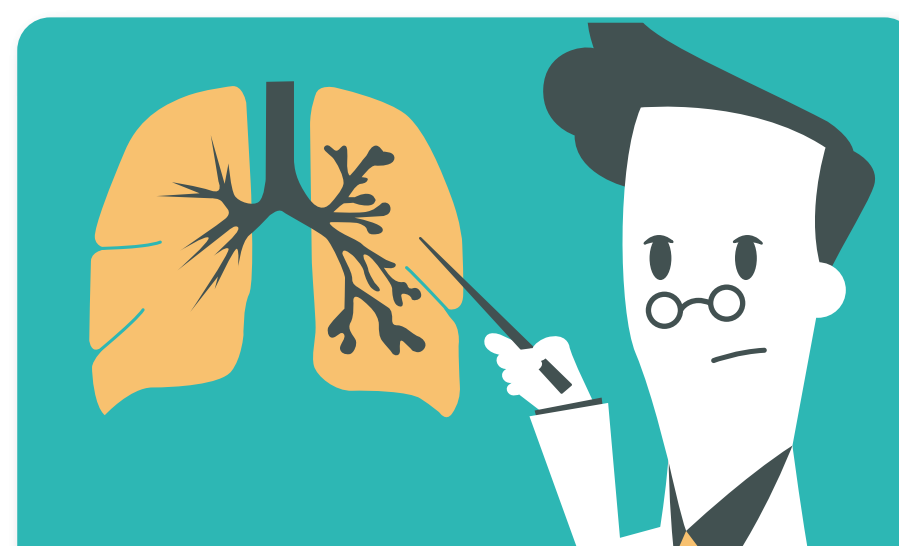
01

乳児で呼吸器・消化器感染症を繰り返し、体重増加不良や発育不良がみられる。



02

1年に2回以上肺炎にかかる。



03

気管支拡張症を発症する。



04

2回以上、髄膜炎、骨髄炎、蜂窩織炎、敗血症や、皮下膿瘍、臓器内膿瘍などの深部感染症にかかる。



05

抗菌薬を服用しても2か月以上感染症が治癒しない。



06

重症副鼻腔炎を繰り返す。



07

1年に4回以上、中耳炎にかかる。



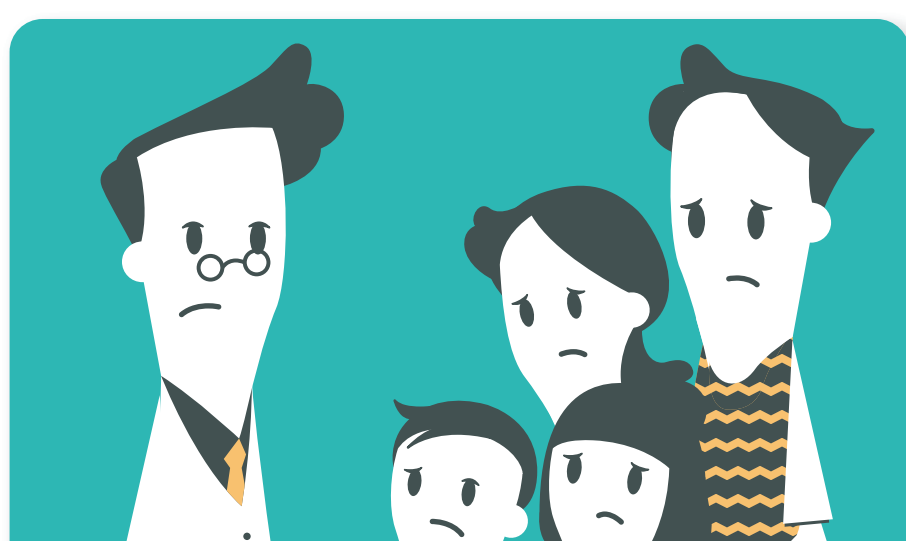
08

1歳以降に、持続性の鰐口瘡、皮膚真菌症、重度・広範な疣贅(いぼ)がみられる。



09

BCGによる重症副反応(骨髄炎など)、単純ヘルペスウイルスによる脳炎、髄膜炎菌による髄膜炎、EBウイルスによる重症血球貧食症候群に罹患したことがある。



10

家族が乳幼児期に感染症で死亡するなど、原発性免疫不全症候群を疑う家族歴がある。

これらの所見のうち1つ以上当てはまる場合は、原発性免疫不全症の可能性がないか専門の医師に相談して下さい。この中で、乳児期早期に発症することの多い重症複合免疫不全症は緊急に治療が必要です。

●専門医療機関は、日本免疫不全・自己炎症学会サイトの「学会連携施設リスト」をご参照ください。

<https://jsiad.org/renkeilist/>



小児用

原発性免疫不全症を疑う10の徴候

— 患者・プライマリーケア医師へ向けて —